

編集後記

○9月に入ると暑さも薄らぎ秋がそこそこに見えはじめます。彼岸を過ぎると、秋はもうかけ足です。この時期はまた畜産の季節でもあります。「草の週間」、「牛乳、乳製品の消費促進運動」、「第18回県畜産共進会」などもりだくさんの行事がつぎつぎと行なわれています。

○毎年のことながら、共進会には実に立派な家畜が多数出品されます。まことに頭が下がる思いがするわけですが、やはりこれとても経済を度外視してはやって行けない時期にきているようです。種畜の改良は多頭羽飼育がすすむほどその重要度を増してきますが、経営として成り立つ、規模の大きい種畜生産の形が育ってこなければならぬと思われてなりません。これは経営に結びついた1つの新しい技術ですが、いろいろの面で今ほど新しい技術、しかもよく消化された技術の普及が望まれている時期はありません。今月号には農業構造改善事業と取組むにあたっての心がまえについて、畜産課の担当係から要点について執筆を願いましたが、事業の実施には常にこういった広い意味での技術面の応用がよく検討されなければならないでしょう。この意味で多田技師の乳牛の省力管理の方法など、これからの技術改善に多くの示唆を与えるものがあると思います。

○毎号発行が遅くなり申訳ありませんが、10月号は10月初旬には出せるよう目下努力しておりますので何卒御了承ください。

なお会費未納の方は、前金が立まえとなっておりますので、速やかに御払込み下さるよう御協力お願いします。